豊岡市生物多様性地域戦略　短期戦略Ⅲ（案）に関するパブリックコメントの結果と回答について

豊岡市生物多様性地域戦略　短期戦略Ⅲ（案）に関し、パブリックコメントを実施したところ、５名の方からご意見・ご提案をお寄せいただきました。
いただいたご意見に対する市の考え方について、以下のとおり回答します。

１　パブリックコメントの実施状況

⑴　意見募集期間

2023年1月12日(木)～1月25日(水)

⑵　公表資料の閲覧方法

ア　市公式ウェブサイトにて閲覧

イ　市役所本庁舎コウノトリ共生課及び各振興局地域振興課にて閲覧

⑶　意見提出者数

５人（15件）

２　意見の概要と意見に対する市の考え方・回答

No.	作戦	目標	取組	意見の概要	意見に対する市の考え方
1	全体			生物の特定の種名などが無いので一般の人々に分かりやすいとは思いますが、漠然としたイメージが強く、もっと固有名詞を入れる必要があると思います。例えば、作戦2－目標2、作戦4－目標3には具体的にコウノトリという記述がありますが、他に関しては「森里川海」や「希少動植物種」といった漠然とした記述になっています。これではコウノトリだけをターゲットにした戦略との印象が強いように感じます。よって、日本海や円山川、神鍋高原、オオサンショウウオなど、具体的な場所、生物の種名などを入れた取り組みがあった方が、地域に沿った戦略になると思います。	ご意見のとおり、具体的な地名や種名があった方が、イメージを抱きやすいと考えます。 全ての方がイメージを共有できるような例示をすることは難しいと考えますが、アメリカザリガニやミシシッピアカミミガメについては、2023年6月から条件付特定外来生物となることなどから、作戦2-目標５-取組2の説明に追記します。
2	全体			策定から10年となりますが、この戦略が果たして意味があったのか、豊岡の生物多様性を高めることができたのか、効果の検証を行う必要があると思います。例えば「作戦2－多様な生きものが住みやすい環境を増やします」とありますが、この10年で増えたビオトープの数や環境、生物の生息状況の増減などの検証が必要です。今回が最後の５年となるので、検証の取り組みをお願いします。	計画において、効果を検証・評価して見直しをしていくことは非常に重要なことです。 短期戦略Ⅲにおいては、取組み毎の「成果指標」などを設定し、市民の方にも参画いただく戦略推進委員会において、毎年進捗状況の確認を行います。

No.	作戦	目標	取組	意見の概要	意見に対する市の考え方
3	全体			策定委員に思い切って若い方を入れられたことで策定委員会の議論が活発になったように感じ、内容的にも非常に良い計画だと感じました。 PDCA方式で進められるのであれば、短期戦略Ⅱの実施状況を作戦単位ごとではなく各目標細目ごとに評価したものを公開しないと、目標によって実現不可能であったり評価が困難なもの簡単なものが混在している中で、実際の達成度がわかりにくいと考えます。よって、参考資料の中に短期戦略Ⅱの各目標細目とその達成度を掲載すべきと考えます。	これまでは、「成果指標」などを設定していなかったことから、取組み毎の達成度を評価することができませんでした。 短期戦略Ⅲにおいては、取組み毎の「成果指標」などを設定し、市民の方にも参画いただく戦略推進委員会において、毎年進捗状況の確認を行います。
4	1 「まずは知る作戦！」地域のみんなが、地域の自然の豊かさな脆さをわかるようにします。				
		1 生きものの様子から季節の変化を感じ取り、その話題で会話が弾んでいます。			
			2 豊岡らしい季節のことばを集めた「豊岡時候のあいさつ集」を作成します。		
				3ページの破線の中に「豊岡ならではの季節のことば」とあります。 挨拶集で使用する豊岡ならではの言葉は、季節の言葉に限定せず、全文で豊岡ならではの言葉を活用しては。	短期戦略Ⅲは、生物多様性の保全・向上を目的としていることから、自然環境との結びつきの強い時候のあいさつを対象としています。
5		2 「生きもの博士」と呼ばれる人が増えています。			
				豊岡市では素晴らしい研究者や専門家がたくさんいらっしゃいますが、それらの情報があまり市民の間に共有されておらず、また違う分野での専門家同士の交流の機会が少ないように感じています。生きもの博士のシステムは非常に素晴らしいと思いますので、併せて「生きもの博士の交流と情報共有がされています」のような目標を追加されるのはいかがでしょうか。また、鳥類や植物などの分野に限らない、生きもの博士による豊岡についての研究を発表できる「豊岡環境学会」のような機関の設立を市主導で行われると、市民研究もより活発になると考えます。	短期戦略Ⅲでは、まずは「生きもの博士」と呼ばれる人を増やすことを目指したいと考えています。 その後、市民研究がより活発になるように、「生きもの博士」などが交流できる場の提供を検討していきます。
6		2	4 豊岡の環境保全に寄与する研究活動を支援します。		
				3ページの破線の中に「高校生等地域研究支援事業」とあります。 小学生で地域の生き物観察などのカリキュラムが有るので、次のステップの位置付けや裾野の広がりを考慮し、中学生を中心に考えた方が良いと思う。(大学生の研究支援に高校生を含めるイメージ)	小学校3年生から中学校3年生までふるさと教育において、系統性と一貫性のあるカリキュラムの一つとして取り組んでいますが、中学生になると、部活動等で忙しくなり自然に触れる機会も減少する傾向が見られます。自然に関心を持つ中学生が増え、活動できるような取組みの充実を検討していきます。

No.	作戦	目標	取組	意見の概要	意見に対する市の考え方
7		4　小学校区ごとに「生きもの地図」が備えられています。			
				誰がつくるのか、誰が支援するのか、どのように動機づけるのかなどの作戦が必要だと思いますが、次の5年間で実現する見通しはあるのでしょうか。	「生きもの地図」は、すでに自然再生アクションプランの取組みの一つとして、いくつかの地域で取り組まれています。 今後も、地域の方が、お住まいの地域の自然環境を見直す機会の一つとして取り組まれるように、出前講座や、小さな自然再生活動支援助成金などにより、市も支援していきます。
8	2　「行動に移す」作戦！				
		4　生物多様性の保全が図られている区域が増えています。			
				身近な里山、ビオトープ、小川の保全や管理を意図する項目が少ないように思われます。ここに、「地域（小学校区、地域コミュニティ）の中に里山、ビオトープ、小川の、保全・利用モデル区域をつくり、学校やPTA、地域コミュニティなどで連携し管理・利用をすすめます」というような項目を加える必要はないでしょうか。 私有地、公有地などいろいろあるでしょうが、実現可能な範囲でモデル地区を創っていくことが大切だと思います。例えば里山ならば、妙楽寺、金山、愛宕山、大師山、三開山など。里山の取り組みは遅れていると思います。ビオトープは、地域コミュニティが関わる良い取り組みがいくつかできています。小川では地域団体や学校などの取り組みの中で、事前に草刈りなどの管理をされている地域があります。これらをモデルとして評価し広めていくことが大切だと思います。	今後、OECM登録を推進していく過程で、地域の意向を踏まえ、モデル地区として支援することも検討していきます。 また、里山との関わりについては、竹を切って楽器にしたり、シイタケのホダ木作りをしたり、山菜狩りをしたりするような取組みもみられますが、市内で見ると十分とは言えない状況です。本戦略では、自伐型林業従事者の数値目標を設定し、また、今年度策定する森林・林業ビジョンにも林業従事者の増加や、市民が山に触れる機会の創出を目指すことなどが取組みとして位置づけられていることから、これらの計画と連携しながら取り組んでまいります。
9			1　生物多様性の保全が図られている区域が増えています。		
				円山川の自然再生事業がOECMとして環境省でも高く評価されているため、OECMの説明に加えるとより身近に感じられると考えます。	円山川の自然再生事業箇所は、鳥獣保護区に指定されているため、OECMの条件である「法的な保護地域ではない」を満たしておりません。しかし、河川改修に合わせて行われた自然再生事業は広く評価されていることから、市民への周知に努めていきます。
10			3　地域や学校教育で豊岡がラムサール条約湿地など国際的評価を得ている地域であることへの理解を深め、誇りを醸成します。		
				近年は生物多様性保全について積極的な地域も新たに出ており、先進的な取り組みをしている地域も増えました。また、コウノトリの野生復帰に関しても関東地方の複数自治体が積極的な取り組みを始めています。そんななか、国際的評価を得ている豊岡市だからこそ常に先進的でありつづける必要があります。現状では、せっかく得た評価も下がってしまうのではないかと危惧しています。	豊岡市の生物多様性保全を推進していくための貴重なご意見として承り、今後も豊岡市が先進的な自治体であり続けるために、短期戦略Ⅲを着実に進めていきます。

No.	作戦	目標	取組	意見の概要	意見に対する市の考え方
	3 「基盤を守る」作戦！				
		3 市民や消費者と交流する生産者の顔が輝いています。 4 地元で採れたものを優先して食べる人が増えています。			
11				①地元住民が地域食材に触れる機会がもっと増えたらいいと思う。 例）料理教室、試食会、地域食材を使った料理コンテスト	地産地消を推進していくためには、市民が地元の食材や生産者と触れる機会を持つことも大切であると考えています。 豊岡の農林水産業に関する知識を深めたり、地元産品の価値を認識できるような取組みを進めていきます。
12				②生産者の方に、自分の食材たちの価値を再認識してもらう。 但馬のお米は無印良品に並んでいたり、神鍋のニジマスはミシュラン三つ星のシェフが使用しています。 もっと但馬の食材を、SNSを活用して外部露出すべきです。 生産者の方の話を聞くに、「その点におけるノウハウがない＋そこに時間をかけられない」という声が大半です。 ここを他の自治体が行なっているように、「食材のブランディング」「地域食材のPRアカウント」「ふるさと大使」などを活用してより多くの方に発信していければ良いかなと思います。 そして、農家さんが稼げる仕組みを作っていくことが農業従事者数向上にも繋がると思います。 市外部に露出していく場合は、返礼品などをライブコマース（※）等でPRすることもできます。 **※SNSなどで、ライブ動画を配信し商品を紹介して購入してもらうという販売の形態。視聴者は配信者に質問したり、配信画面から直接購入したりすることができる。**	農林水産課では、豊岡の農業、農村、食の魅力を周知するためSNS等を活用して情報発信に努めています。 いただいたご意見などを参考に、今後さらなる情報発信等の強化につなげ、持続可能な農業の推進に努めていきます。 ※豊岡グッドローカル農業推進室公式SNS https://www.city.toyooka.lg.jp/sangyo/1021071/1023680/1023798/1017383.html Facebook Instagram Twitter

No.	作戦	目標	取組	意見の概要	意見に対する市の考え方
	4　「つながる・つなげる」作戦！				
		1　自然の中で遊ぶ子どもの姿が増えています。			
			1　次世代を担うこともたちを育てるため、自然とふれあう活動を充実させます。		
13				「子どもの野生復帰大作戦」というスローガンをなくしたのはなぜでしょうか。「コウノトリの野生復帰」と連動し豊岡の取り組みとして分かりやすいと思います。 「子どもの野生復帰大作戦」は様々な団体が行ってきた取り組みであって豊岡市が行政として委託して行っていた取り組みのみを指すものではありません。 これからも「子どもの野生復帰大作戦」というスローガンのもとに活動を進めていきたいと思います。	「子どもの野生復帰大作戦」の一環として市が実施していた「キッズワイルド」の事業については、2020年度で終了しました。 一方、民間団体において子どもたちを対象に、様々な自然体験活動が提供されていることは、この作戦４目標１の実現に大切な役割を果たしています。 市が策定する短期戦略Ⅲでは「子どもの野生復帰大作戦」という表現は使っていませんが、コウノトリの野生復帰を進める本市において、”子どもの野生復帰”の表現を残すことは、豊岡らしさが表現できることから、取組みの表現を「自然とふれあう活動を充実させ、子どもの野生復帰も進めます。」に見直します。
14	5　「効果を高める」作戦！				
				目標、作戦を実行に移すための方法をもう少し具体化する、あるいは具体化する場を作ることが 必要だと思います。作戦の目標を実行する具体的な作戦が必要です。戦略推進委員会がそのような役割を果たすのでしょうか。	ご意見のとおり、取組みを着実に推進していくことが重要であると考えます。そのために、戦略推進委員会による取組状況の把握とは別に、個別の課題について検討協議を行う場を設けます。
15		2　この戦略の実践を支える拠点が機能しています。			
				拠点とは「戦略推進員会」のような組織もさすと思いますが、拠点施設も位置付けて、より機能させることを考える必要があるのではないでしょうか。「コウノトリ共生課」とその下にある普及啓発施設「コウノトリ文化館」、「ハチゴロウの戸島湿地」など。この戦略を支えリードする施設・設備、人材、配置も重要だと思います。	コウノトリ文化館やハチゴロウの戸島湿地なども拠点の一つとして考えています。今後も、指定管理者と密に連携を図りながら、情報発信拠点や交流拠点として適切な運営管理を図り、短期戦略Ⅲを着実に進めていきます。